

講評

第17回公共建築賞 中国地区審査委員会 委員長

広島大学特任教授
岡河 貢



公共建築賞・
優秀賞

行政施設部門
(中国地区)

雲南市役所新庁舎

中山間地における里山の山林の荒廃は、異常気象で多発する災害の被害拡大につながる恐れが高く、各地で深刻な課題となっている。しかし過疎高齢化の進む中山間地域では、里山の再生は進んでいないのが現状だ。この施設は、こうした里山の再生に対する一つの試みといえる。

6町村が合併して生まれた雲南市は、たたら製鉄に代わる里山活用を目指し、地産地消のバイオマス資源である木質チップの有効利用システムを構築。雲南の歴史・文化・風土・自然を生かし、省エネと環境負荷低減の効率的設備システム、再生可能エネルギー利用システムにより、地域のサイズに合ったZEB化を実現した市庁舎を完成させた。

職員が設備の運営管理にも関わり、市民も市庁舎を利

用することでその効果を実感でき、環境意識の醸成にも一役買っている。今後の公共建築のモデルケースといえよう。



公共建築賞・
優秀賞

行政施設部門
(中国地区)

落合総合センター

市役所支所・保健センター・公民館・図書館といった市民サービス機能を、市の最大の地域資源である木質資源を最大限活用して整備することで、地域住民の利便性向上に資するだけでなく、市民のための公共施設として地域産材の良さの普及・啓発に貢献している。

木構造の最大化を図るため、建物の一部をRC造の耐火建築物とし別棟解釈とすることで、その他の部分は特殊加工を伴わない燃えしろ設計により、規模の大きな木造建築物を実現している。

メインファサードとなる建物正面には、一般製材を4

本束ねた組柱の列柱を配置し、地域交流の拠点にふさわしい親しみやすい表情を生み出している。内部の交流ロビーは、一般製材と集成材をそれぞれの特性を生かすように組み合わせ、力強い架構と繊細なルーバーによる、木に包まれた優しい空間を表現し、各交流機能をつなぎ留める場となっている。

地域林業で排出される木質バイオマスを主燃料に冷暖房を行うことで、CO₂排出量削減に貢献するとともに、地域のふんだんな自然の恵みをエネルギーに変換して利用している。

本施設は、企画から施設運営まで一貫して地産地消の考え方を取り入れて実現した公共建築である。



公共建築賞・
優秀賞

文化施設部門
(中国地区)

松江市総合体育館

4年前に完成した松江市総合体育館は、老朽化した旧体育館の建て替え事業である。約10年をかけて企画、設計、施工されており、市民の意見を取り入れながら、市民とともに整備を行い、市民に愛されながら使用されている。プロバスケットチームのホームアリーナとして利用されているほか、有名ミュージシャンのコンサートなど新たな利用も見られ、市民に刺激をも与える施設となっている。

建築的には、外壁にランダムに凹凸を付け、ラワン合板の型枠の風合いを生かした美しい仕上げとなっている。アリーナに架かる高さを抑えた2連の切妻屋根は特徴的で、ボリュームはあるが威圧感を与えないなど景観に配慮がなされている。内部は、必要諸室が1フロアにまとめられ、更衣室や会議室を大小のアリーナ間に集約配置することにより、移動距離が短く平面移動のみで利用できるなど、スポーツ施設としてわかりやすいシンプ

ルなプランとなっている。

災害時における避難拠点としての機能も有しており、また雨水利用など環境にも配慮されている。

完成から4年が経過したところであるが、企画や設計の趣旨を踏まえた適切な管理がなされ、市民とともに歩む優しさを感じられる施設となっている。



公共建築賞・
優秀賞

生活施設部門
(中国地区)

岡山市立市民病院

駅に隣接することで、医療機能だけでなく周辺のまちづくりをけん引する役割を担っており、21世紀型の地域医療ネットワークの中核となる医療施設として、新しい市民病院のあるべき姿を評価できる。

北長瀬駅の新駅との結びつきを考慮したペDESTリアンデッキは、来院者を含め市民の利便性を高めており、これにより広域からの来院者数が増加している点で、動線計画を評価できる。医療機能と救急機能を明確なゾーニングで分け、利用者に分かりやすい計画としていることも評価できる。

診療部はホスピタルモールと外来モールに面し、建物の中央に大きな光庭を設置し、自然採光と通風の確保により豊かな内部空間を創出することで利用者に配慮した施設となっている。

病棟はダブル十字型病棟で、スタッフステーションか

ら患者を見守ることが容易な医療環境を整備していると同時に、看護動線を短縮している。

病室はベッドサイドのスペースが広く確保され、廊下からの視認性を向上させるために水回りの位置を工夫している。



地域特別賞

中国地区

広島県立大崎海星高等学校 管理棟

瀬戸内海の橋が架けられていない島しょ部の高等学校施設の増築であるが、地域振興として教育機関を島しょ部で増強する企画は、島しょ部地域ならではの可能性と、特色ある地域振興策として公共性を評価されるものといえる。

同校の卒業生として大工職人が多く輩出されており、施設を木造としたことで、こうした大工職人が建設に参加している。この地域の地場産業であった木造船の伝統的な造船技術が建築大工技術として継承されており、受け継いだ技術を持つ大工職人が建設に参加することにより、地域の技術の伝承的進展を促しているといえる。またここで学ぶ学生たちが、日々この建物を使うことにより、さらなる伝統技術の伝承を可能としている。以上のような観点から、地域特別賞として表彰した。

建設に際しては、伝統的なものだけでなく、今日的な木造技術も応用されており、地域の特色である木造技術の展開という点でも、未来を見据えたものといえるだろう。



(受賞作品掲載は地区推薦順)